

TJCAS2019 に参加して

久保和良 博士 (工学)
小山高専 電気電子創造工学科 教授
長岡技術科学大学 客員教授併任
小山高専勤続 20 年表彰
第 1 種普通自動車運転免許所持
筑波サーキットライセンス更新せず失効
IEEE 正会員、計測自動制御学会会員、日本機械学会会員
2019.8.29 現在

1. 緒言

2019 年 8 月 19 日 (月) ~21 日 (水)、私にとって初めての TJCAS に参加しました。ここには多くの活動があり、複合的なまとまり方が絶妙で、大変満足しました。私にとっては 15 年ぶりの国際会議参加で、この間、学会のあり方も大きく変化しました；以前は OHP を使っていたのですが、今回はポスターです。文化遺産の日光東照宮客殿は丹下健三建築と言いますし、渡り廊下は皇居と同じ造り、輪王寺紫雲閣も日本らしさあふれる会場で、文化的にこの上なく欣快の極みです。15 年ぶりとは人生のスパンであると感じたのは、母を亡くした歳月と重なり、その頃言葉を話し始めた子と生まれる前の子が、今回同行してくれて、今日は高校生と中学生として、連名の発表が行えた。夢にも思わなかったことが実現しました。これも小林春夫先生はじめ多くの方のご理解と、優しさに包まれてこそこの奇跡と感じ入りました。つぎに触れますが、母と台湾は切っても切れない思い出です。ここに台湾の研究者と日本の研究者が回路とシステムを話題にして議論を重ね、朋友と呼び合って友好を深めるなど、喜びに満ちた国際会議のご報告を申し上げます。

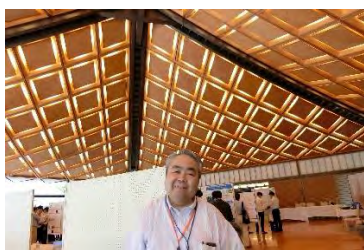


Fig.1a 客殿で発表さぼる



Fig.1b 皇室と同じ廊下



Fig.1c 昼食に満足うごけない

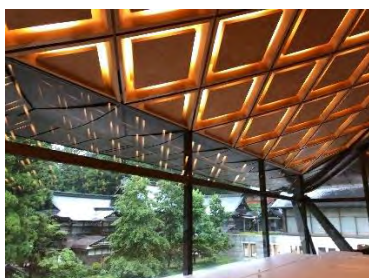


Fig.1d 外は雨で涼しい



Fig.1e 舌鼓のお弁当



Fig.1f バンケットで朋友

2. レセプションパーティにてスピーチをさせていただく

※アドリブで台湾への愛を語りました。

記憶を頼りに文字起こししていますので、誤りあればお許しください。



Fig.2a 台湾への愛を語る



Fig.2b 最近、重力場が強くなったかな

Good evening! My name is Kazuyoshi Kubo, I'm working for the Oyama National College of Technology, NIT, KOSEN.

I have received the Prize of high school student session, and I am really pleased. Now, I am so grateful. I look young, but I'm not!

Anyway, I come to this stage because I want to talk something:

No.1: I love Taiwan, and Taiwanese friends, 朋友(=friend).

No.2: I Japanese want to say thank you Taiwanese, 朋友們(=friends).

The reason why I love Taiwan, is that my mother was born in Tainan, Taiwan.

And, before talking about No.2 reason, (I have forgotten) the greetings!

大家好！还是晚上好啊。(=Hello, everyone. Yet it's still been Good Evening, hasn't it?)

現在我開始自我紹介一下。我叫久保。见到你們、我很高兴。(=Now, I start to introduce myself to you in short. I am Kubo. I see you and I am very glad.)

哎呀…。(=Oh, my goodness!) My vocabulary of Chinese has just reached to the limit. So, from now on, let me speak Japanese, or English.

こんばんは(=ごきげんな夜です)、私は久保和良と申します。小山高専で働いています。

高校生のセッションでの賞をいただいたのですが、本当にうれしかったです。とても光栄です。私は若く見えましようか、もう若くはないのですけれど…。

いずれにしても、私が登壇したのは言いたいことがあったからです。その一、私は台湾を、台湾の人、台湾の友達を愛しています。その二、私は日本人として、台湾の人、台湾の友達に感謝を申し上げたい。

私が台湾を愛している理由は、私の母が台湾の台南で生まれたからです。

それから、二番目の理由を言う前に、ご挨拶をいうことを忘れていましたネ。

皆さんこんにちは。まだごきげんな夜をお過ごしでしょうか？

今からちょっとだけ、自己紹介を始めます。私は久保と申します。お会いできて大変うれしい。(=よろしくお願ひします。)

えっと…しまった、私の中国語の語彙が限界に達してしまったようです。なので、これからは日本語と、英語でお話しします。

As the reason for the No.2, the story begins from phrase “Long long time ago,” it’s 90 years from now,

a boy, a Japanese boy, graduated his high school in 1928, he is my grandfather, he wanted to live in Taiwan, so he boarded a ship, then found himself in Taipei. He applied to the Taipei Normal college(=台北第一師範), the college is now, you know, the University of Taipei(=台北市立大学). He graduated the college and then found a job as a teacher in Tainan. He worked for an elementally school as a Japanese and Chinese teacher at his age of 20. And he was a principal of the school at age of 27.

Shortly after he found the job, he got married, his wife become pregnant, and a baby girl was born in 1934; the baby is my mother.

She spends her first 12 years in Taiwan of happy life with Taiwanese friends. So, when I was a child, my mother told me many good stories and memories that I loved to listen to.

My mother always told me that the friendship and good relationship is really important. Her class at that time includes half of Taiwanese student and also half of Japanese student. So, she speaks Taiwanese with her friends in school, and also Japanese in home, thus she was a bilingual. My grandfather can speak Taiwanese(台湾話), Chinese(普通話), and Japanese(日本語), so he was a multilingual. My grandfather treated both Taiwanese student and Japanese student equal, never distinct them. And he doesn’t like the Japanese status in the World War II. My grandfather always said to me, be honesty, never tell a lie, and remind yourself of the three airs, I mean, care, share, and fair.

二つ目の理由を語るにあたり、話は「むかし、むかし」で始まります。今から 90 年前の話です、

一人の日本人青年が高校を卒業したのは 1928 年の事、その少年は私の祖父なんですけどね、その少年は台湾に住みたかったので、船に乗って台北に来ました。台北第一師範学校を受験して、そこを卒業して台南の教師になりました。台北師範は、皆さんご存じの通り、今の台北市立大学ですね。

少年は 20 歳で台南にある小学校の日本語(国語)と中国語(漢文)の先生になりました。そのあと 27 歳で、校長になったんです。

祖父は仕事を見つけた直後に結婚し、祖母は懐妊して、女の赤ちゃんが生まれました。1934 年の事です。私の母の誕生です。

母は人生の初めの 12 年を、台湾で幸せに暮らしました。私が子供だった頃、母は台湾でのたくさんの思い出や良い話を聞かせてくれ、私はそれを聞くのが好きでした。

母は私によく言いました、友情と、良好な関係が何より大切なんだよと。母のいたクラスでは半数が台湾人小学生で、残りが日本人でした。だから、母は学校で友達と台湾語で話した、そして家では日本語を話した、だから母はバイリンガルです。私の祖父も台湾語、中国語の標準語、日本語を話したのでマルチリンガルでした。私の祖父は台湾人学生も日本人学生も等しく同じに扱い、区別をしなかった。そして祖父は第二次世界大戦下の日本を嫌った。祖父はよく私に言いました、誠実であれ、決して嘘を言うな。三つのエアを忘れるな、つまり気遣い面倒をよく見よ、独占することなく分け与えよ、公正であれ依怙最厚するな。

My grandfather is a strange person; in the era of the world war II, when Japan ruled Taiwan, many Japanese yell 天皇陛下、万歳、万歳！ (=Long live His Imperial Majesty Japan), while my grandfather say 天皇陛下パンサイ、パンサイ！ instead, it's just ...am, it's not relevant to talk about here, and...(<註> some Taiwanese's laugh, because パンサイ in Taiwanese means 放屎 (=うんこ、大便をする)).

My mother wants to stay in Taiwan for a long time, but Japan lost the World War II, it's the unconditional surrender, and she have to leave Taiwan, My grandfather's family must back to Japan. And when leaving Taiwan, I heard many of Japanese are stoned by Taiwanese. But..., my grandfather's family was never stoned...(I mean Taiwanese friend never take revenge on all the Japanese, for they surely know what is wrong and what is right.)

That's why I Japanese want to say thank you, Taiwanese.

Thank you very much, I appreciate it!

私の祖父は変わった人でした、第二次大戦の時代にあって、多くの日本人が「天皇陛下万歳」と叫んだ。一方、私の祖父は「天皇陛下がうんこする、うんこ、うんこ（台湾語で）」と言ったそうですが、えっと、これは今お話しするには相応しくない言葉ですね…(<註>食事中だったので、何人かの台湾の人が下を向いて笑いをこらえていました)

私の母は台湾に長く残りたかったのですが、日本は第二次世界大戦に負けてしまいました、無条件降伏です。だから彼女は台湾を去らねばならなかった。私の祖父の家族は日本に戻ることになりました。台湾を去るとき、多くの日本人が台湾人に石をぶつけられたそうです。私の祖父の家族は、石を投げつけられることはなかった。(つまり、台湾の人は、日本人なら誰でも復讐するのではなく、良いことは良いとわかっていました。)

だから、日本人である私は皆さん台湾人にお礼を言いたい。

どうもありがとう。感謝します！



Fig.2c 台湾の方々が前に集まってきてくださった、これは嬉しかった

3. WiCAS/YP Special Session にて子供と発表する



Fig.3a 輪王寺紫雲閣でのポスター発表



Fig.3b 筆者発表



Fig.3c 受賞式

英語に慣れていない筆者と、英検準二級にギリギリ合格した高校生と、英語を半年だけ勉強した中学生と、家族3人で査読付きポスター3件と査読なしポスター3件を同時進行で発表した。子供は英語ができないからと尻込みしてしまっただが、とりあえず読めるように練習させて、立っただけで何とかなるからと言って、筆者は査読付きの方3件の近くにいと、気さくに、とても優しい方々が、質問においで下さった。

査読付きの3件は、夏休みの中学生の自由課題に的を絞った。というのは、自由課題と言いながら、要求されるのは自由かどうか疑わしく、なおかつ本気で入選を狙うなら遺伝子組み換えくらいしないと昨今の中学生は認めてもらえない。多くの生徒は無難な炭酸ソーダを作るなどのテーマで無難に過ごす夏休みの宿題、この現状はもったいないと考えられた。そこで大学院でもできそうな実験を実際に自宅でやってしまった。今回このテーマを発表して、中学生自由研究の課題を質疑応答で意見交換して知的に盛り上がりとうの意図がある。1件目は中学3年でフレッチャーマンソン曲線を自宅で計測する物理テーマを実施した報告、2件目は中学2年で空き缶笛の共鳴周波数を計測して、理論値と比較する物理テーマの報告で、こちらは小山市の自由研究コンテストで銀賞をいただいた。3件目は中学1年で4を4つ使って任意の整数を作る数学テーマの拡張報告で、中学生はまだ平方根を習っていないので、思ったより難しい課題になる。意外にも1件目と3件目が研究者の方から好意的にディスカッションさせていただいたのが印象的であった。

査読なしの3件は、中高生の好きな世界を研究者に知っていただくこと、具体的にはSNSの利用、Youtuberの魅力、そしてどさくさに紛れて筆者の台湾への愛を伝えさせていただくことを目的とした。子供たちは、とても優しく質問して下さった多くの研究者、大学院生、高専生に大変に励まされて、発表前と発表後の表情は危機からの生還の如くであった。

国際会議でこのような触れ合いは、かつてはなかった。小林春夫先生をはじめ桑名杏奈先生の優しいご対応にも本当にお世話になりながら、皆様のお力に励まされて、スペシャルセッションの形で達成感を与えて下さったことは有難いと考えています。当方がうっかりしたのは、中高生のポスターであるにもかかわらず、中高年の正員である筆者のポスターも置いてしまった点で、レセプションでの受賞の部分で上手先生から筆者の名を呼んで下さった際には嬉しいやら恥ずかしいやら、今後の課題として笑って許していただきたく候。

4. レセプションとバンケット



Fig.4a 入り口 Fig.4b 小林春夫先生貫禄のスピーチ Fig.4c 感じの良い上手先生

レセプションは貫禄の小林春夫先生のスピーチに続き、お気遣い豊かな群馬大学の羽賀望先生の司会により感じの良い徳島大学の上手洋子先生、岡山理科大学の荒井伸太郎のホッダーラTシャツ説明および実演手ほどきつきの乾杯へと続き、会場の様子は和んだ。驚いたのは、上手先生、荒井先生ご両人とも高専卒業とのことで、そのほかにも高専卒業の大学院生、東北大学の先生など、高専の隠れた実力を目の当たりにすることができた。

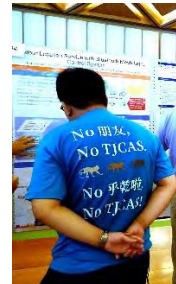


Fig.4d 楽しいバイキング Fig.4e 明るい荒井先生 Fig.4f ホッダーラTシャツ

バンケットは参加者想定外のため、学生は東京都市大学の傘昊先生のご配慮により楽しい飲み歩きに参加して、バンケット会食の方には教員研究者と家族を中心とする100名ほどが参加して盛況であった。特に台湾の先生方は、昨日のスピーチをよく覚えてくださって、とても気の利いたお声をかけてくださったのが印象的である。自由な話やすい雰囲気、研究者の有機的なつながり、無理強いはなく明るくまとまってゆく。大いに研究者の交流を満喫できた。小さなお子様連れの研究者も見かけたが、全く問題はなかった。最後はお決まりの朋友を歌い、乾杯を歌い、拍手をして最終日に向かってゆくのであった。



Fig.4g バンケット Fig.4h 終盤の盛り上がり Fig.4i 朋友を歌う

5. メインの研究発表

一応補足しますが、研究発表も行いました、の巻。



Fig.5a 2日目（新学科科目のシステム工学的考察）



Fig.5b 3日目（SI について）

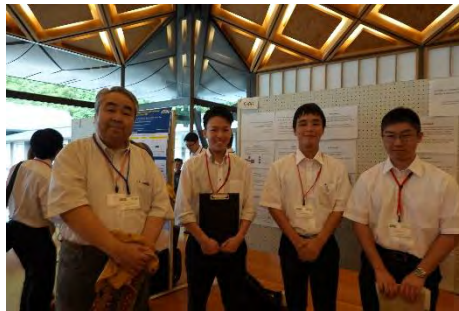


Fig.5c 研究室の学生と

今回の研究発表数は 13 件、うち群馬大学小林研究室の連名で投稿して下さった 2 件と、WiCAS/YP の 6 件を除くと、5 件の研究発表をした。当研究室からは学生 3 名がそれぞれ新学科教室の残響時間計測結果、測色計によるインク色設計の基礎研究、測色計によって古書の年代推定する手法について、大学 2 年生相当の学生とは思えない堂々とした発表をしてくれた。多くの研究者、大学院生から有意義な議論を賜った様子であった。残り 2 件は筆者による教員研究で、一つは小山高専の電気科と電子科が再編されて新学科になった 7 年目の現在、筆者がかかわる実験テーマによってシステムの素養（分析、同定、設計、制御、システム化、センシング、電子回路設計）を一通り経験できている教育紹介である。主に多くの大学教員が議論に参加して下さって、学科再編により教員削減、研究費削減、不自然な形の 80 人教室での授業、3 名用テーマ実験に 7 人を詰め込む無理な教育実践など、多くの大学等で同様の教育上の悩みを抱えている実情の意見交換ができて有意義であった。教員研究のもう一つは、今年 5 月から有効になった国際単位系 SI について、その概略を説明するとともに、単位表記の致命的誤り（単位にカッコをつける誤りと、グラフや表にスラッシュで単位をつけない誤り）が、特に東大よりも地方大学の入試問題に多い事、高専では誤りが特に多い事、なぜか電気電子系の専門研究者に誤り記述が多く、指摘しても根強い反論が出て一向に改善されないこと、正しい表記はすでに理科年表でも、理系の作文技術ベストセラー書でも、電気学会誌に電気以外の研究者が書いた解説にも正しく表記されていることを指摘して、理解を求めた。今後も引き続き誠実に、真実を述べてゆきたいと考えている。

6. 結言

有意義な3日間も、光陰の矢が見えないほどに速やかに。



Fig.6a 1日目、輪王寺紫雲閣の受付とポスター



Fig.6b 2日目、TJCAS2020の告知



Figs.6c-6f 開催期間の点描、左から東照宮客殿エントランス、厠、会場、カメラスタッフ



Fig.6g クロージング表彰

Fig.6h 桑名先生のアナウンス

Fig.6i 3日目の閉会式

今回の TJCAS2019 が 180 名もの参加者を得て、急遽全員にカステラを配るほどの潤沢な予算管理と締めりのある気持ちの良いスケジュールの進行には、General Chair の小林春夫先生はもとより、会計 Co-Chair の弓仲康史先生、桑名杏奈先生のご活躍をはじめとして、多くのスタッフの皆様のご努力、ご奮闘があったことを見逃してはならないだろう。国際会議と言いながら、暖かみのある運営、それに応えるような東照宮の酷暑の合間の涼しさ。人事も尽くすし、天命も味方する、神がかった各位のパワーに守られて、有意義な研究生生活の貴重な思い出が刻まれました。当方のような高専生とともに子供も一緒に参加させていただく台湾好きにとって、バラエティに富んだ展開と優しさに満ちた最高水準の国際会議体験は、何事にも代えられない。あらたふと青葉若葉の日の光、紙幅も尽きて…、〈JK〉あざす！